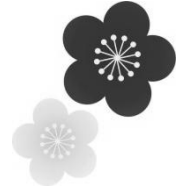


防災かわら版

第14号 平成27年2月

発行 つくし野1・2丁目自治会自主防災隊



防災活動・一年を振り返って

つくし野1・2丁目自治会 会長・鈴木 匡(まさし)

つくし野1・2丁目自治会が最も重視しています防災活動は「自主防災隊」の皆さんや自治委員のみなさん、そしてなにより会員の皆さんのご協力、年2回の訓練を行うことが出来ました。また、消防署・消防団、行政側の支援等本当にありがたいことであると思っています。

第一回目は、5月25日に「一斉清掃」と「安否確認と班会議」を中心とした基本的ですが、最も大切な訓練を行いました。

そして11月16日には、「つくし野自治会連合」として、つくし野小学校が避難広場として指定されてから初めて、4つの自治会がそろって訓練を行い、812人の皆さんが集まって訓練を行いました。これは、いかに皆さんが必ず来るであろう大震災に対する強い危機意識をお持ちになっているからである、と思っております。

4つの自治会が集まって防災訓練を行うこと自体がすばらしいことですが、今回は訓練を行うまでの準備活動として「防災組織連絡会議」を2回にわたり開きまして、それぞれの自治会の会長・不会長だけではなく、各自治会の防災組織のリーダーの皆さんが一堂に会して、どうすれば効果的な防災訓練にすること出来るか、という課題について協議を続け、その結果として防災訓練を行うことが出来たことです。

訓練内容も「けむり体験」「AED訓練」「通報訓練」「救援救助訓練」「初期消火訓練」「はしご車搭乗訓練」等多岐にわたり、お子さんを含めて楽しいながらも真剣な表情でそれぞれの訓練に臨んでおりました。

今年で阪神淡路大震災から20年経ちましたが、あの恐ろしい体験を忘れることなく、教訓としてこれからも引き続き検証していかなければなりません。

兵庫県だけで、亡くなった方は6,434人もなりましたが、直接地震で亡くなった方は5,483人で、問題なのは地震そのものによる死者だけではなく、避難施設等の生活に対応できないなどで、関連死された方が919人も千人近くもいたことです。

私たちの避難施設は、つくし野小学校の体育館ですが、大震災で大勢の方が押し寄せて、寒い夜の場合、ろくな暖房設備のないところで、雑魚寝をして本当に大丈夫でしょうか？

今私たちは、避難生活の質的な向上も考えなければなりません。そのほかペット対策や初期消火の方法など解決しなければならない課題が数多くありますので、これからも皆さんと一緒に考えてまいりたいと思います。



「避難生活マニュアル」の作成について

つくし野1・2丁目自治会 会長 鈴木 匡(まさし)

1、避難生活の発生、

地震等の大災害が発生して、自分の家が住むことが出来なくなりますと、私たちは「つくし野小学校の体育館」で避難生活を余儀なくされます。

「震度6とか7」になることは、地殻が大第変動を起こしていますので、何日も本震と同じような揺れが、2・3日は30分おき、その後も1時間おきに発生して、ガラス等で室内が散乱し、電気やガス、水道が使えない自宅には住み続けることが出来ないかもしれません。場合によってはトイレも使えない可能性もあります。

火事や倒壊の恐れがなく、自宅で住み続けることが出来る人はご自分の家で住み続けますが、避難生活を余儀なくされた方は、町田市は「つくし野1・2丁目」の地域に住む人は、避難施設として、「つ

くし野小学校・体育館」を町田市は想定していて、そこに最小限の支援物資が届くようになります。

(何日後に救援物資届くかはわかりませんので、2・3日間は、水や簡単な食糧、暖房着等をご自分で用意する必要もあります。)

とにかく、みんなで助け合って当分、避難生活をする事になりますが、その時ほとんどの方は初めて経験する生活ですので、想像できないような問題やトラブルが発生する可能性があります。従って、その時にトラブルを避けるためのルールが必要になりますので、そのルールが、「避難生活マニュアル」になります。

(以下内容を検討中です)

(クイズ) あなたはどこまでできますか？

(解答は次号)

この室内には地震が起きたら危険と思われるものがいくつかあります、危険と思われるものに○をつけてください。